

令和6年度 島根県のIT産業支援施策について

令和6年3月18日
島根県商工労働部産業振興課
産業デジタル推進室

I T 産業の位置づけ

★島根創生計画（R2～）

- －人口減少に打ち勝つための総合戦略
- －力強い地域産業づくり
- －IT産業の振興

【施策の方向性】

県外市場から多くの売上を獲得し、若年層の雇用を創出する産業として持続的な発展を目指し、人材育成・確保、高付加価値な業態への転換を支援

★K P I

- ・ソフト系 I T 産業の県内従事者数
- ・ソフト系 I T 産業の売上高

令和6年度のIT産業振興事業

(R5年度)	(R6年度)	(増減)
299,779千円	303,140千円	+ 3,361千円

※主な増減理由

- ・ 優秀な学生を採用するための実証実験、島根大学の「システム創成プロジェクト」の経費の増

令和6年度のしまねDX推進事業

- ・ R5年度、産業デジタル推進室に改組され、企業のデジタル化の推進も当室のミッションに！！

(R5年度)	(R6年度)	(増減)
154,730千円	155,477千円	+747千円

※主な増減理由

- ・ 中小企業デジタル導入加速化補助金を縮小、しまね地域DX拠点の運営、デジタル活用リーダーシップ人材の育成を新たに実施

令和6年度 IT産業振興事業の概要

1. 人材育成・確保

① Ruby教室（3,635千円）

小学生を対象としたプログラミング体験会を開催

② Ruby合宿（7,140千円）

大学生や高校生を対象とした4泊5日の合宿形式でRubyの集中講座を開催

③ 県内の専門高校、高専、専門学校の学生や島根大学生向け授業
(42,789千円)

県内IT企業と連携した授業や必修科目を実施

※島根大学の「システム創成プロジェクト」の実証フィールドとして非IT企業も参加

④ 大学研究室、県内高校生と県内IT企業との交流事業（10,100千円）

県外大学生や県内高校生と県内のIT企業等が直接交流できる機会を提供

(「1. 人材育成・確保」のつづき)

⑤ 文系IT人材の確保支援 (18,400千円)

文系学生を対象にプログラミング等を学ぶ機会を提供
普通科高校で県内IT企業と連携した授業を実施

⑥ IT技術者向け研修 (9,614千円)

IT技術者を対象とした実践的な講座を開催

⑦ UIターン転職サービス「IT WORKS@島根」 (51,105千円)

求人情報の提供から移住サポートまでワンストップサービスを提供

⑧ イノベーション人材の採用を目的とした学生支援の効果検証事業
(4,000千円) **【新規】**

企業連携による共同の採用活動の中で、学生支援に取り組むことの
有効性を検証

2. 企業の技術力・商品力の強化

1) しまねソフト研究開発センター（ITOC）の運営 129,549千円 ⇒別途説明

- ・ ITを活用し新事業創出等に取り組むのモデル企業を育成
- ・ 研究開発（IoT向けプログラミング言語「mruby/c」の機能開発・事業化支援・共同研究等）
- ・ しまねの産業と県内IT企業を結びつけ、新ビジネスの創出を目指す「X-Techラボ」
- ・ 技術検証、市場調査、プロトタイプ製作、サービス展開までステージに応じて一気通貫で支援
- ・ 販路拡大支援（開発ソフトウェア・サービス販路拡大支援助成金）

(「2. 企業の技術力・商品力の強化」の続き)

2) Ruby biz グランプリ開催支援事業 18,808千円

- ・ Rubyブランドの認知度向上を目的に、Rubyを活用した新たなサービスを国内外で展開する企業を表彰
- ・ 県内IT企業との交流・ネットワーク強化を図るため、表彰式を松江開催
(但し、R2・3年度は新型コロナによりオンライン開催)
- ・ 過去受賞企業と地元企業とのワークショップ、メディアツアーを合わせて開催

3) Ruby技術会議開催支援事業 8,000千円

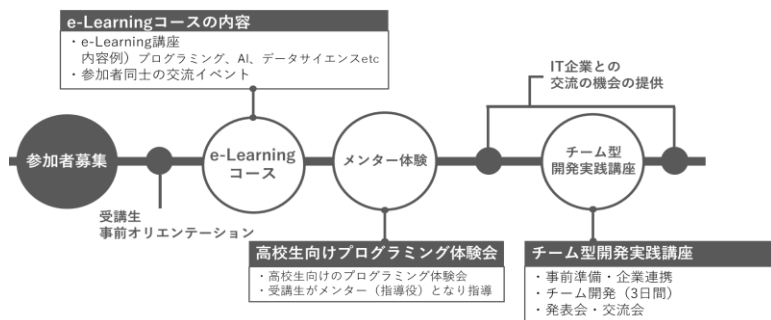
- ・ Rubyコミュニティの強化・拡大と、ビジネス機会の拡大を目的に、RubyWorld Conferenceの開催を支援

合計303,140千円

文系IT人材の確保 IT Boot Camp@島根

1. 事業概要

- ✓ 文系学生を対象にe-Learning×チーム開発型講座によるプログラミングカリキュラムを実施



○ ポイント

- ✓ 約2か月e-Learningでプログラミング講座を受講
 - ・ 週に1回の面談、受講者からの質問には5分以内で対応
- ✓ 高校生へのプログラミングの指導、企業でのチーム開発により、更なるスキルアップ
- ✓ ITを活用した県内企業の課題を解決する実践的講座を開催
- ✓ コース修了者には、修了証を交付
 - ・ 就職活動の際に企業へPR

2. R5年度の実施状況

- ・ 53名の県内の大学生が参加（島根大学17名、県立大学（松江）14名、（浜田）13名、県外大学9名）
- ・ うち36名がe-Learningの講座を完走
- ・ 県内のIT企業のみならず、R5は県内非IT企業の協力のもとITを活用した課題解決の体験を実施参加企業（IT：6社、非IT：5社）
- ・ 県内の両大学とも本事業への関心が高く、学生の集客に積極的

3. R6年度の実施計画

- ・ 定員約60名
 - ・ 実施時期 6月～9月
 - 9月にチーム開発、成果発表会を開催予定
- ※ 5月頃に協力いただく企業を募集します。
- ※ 修了証を発行しております。今後履歴書等に記入する学生が出てくるかもしれませんので、ご承知おきください。

イノベーション人材採用のために企業が連携して行う学生支援の有効性検証事業

- 県は、高い成長意欲と学習意欲をもつ「イノベーション人材（仮称）」になりうる学生は、早い段階から採用活動を行う県外企業に流れていると仮説を立てている。
- この層を採用するためには、早期に学生と繋がり、自らの成長を見込める挑戦的な企業が県内にもあることをアピールすることが重要であると考える。
- 下記のような学生支援を企業が連携して行い、それらがイノベーション人材の採用や県内企業への就職意欲の醸成に有効かどうか様々な視点から検証する。

〈実施期間〉 令和6年～令和7年（2年間）

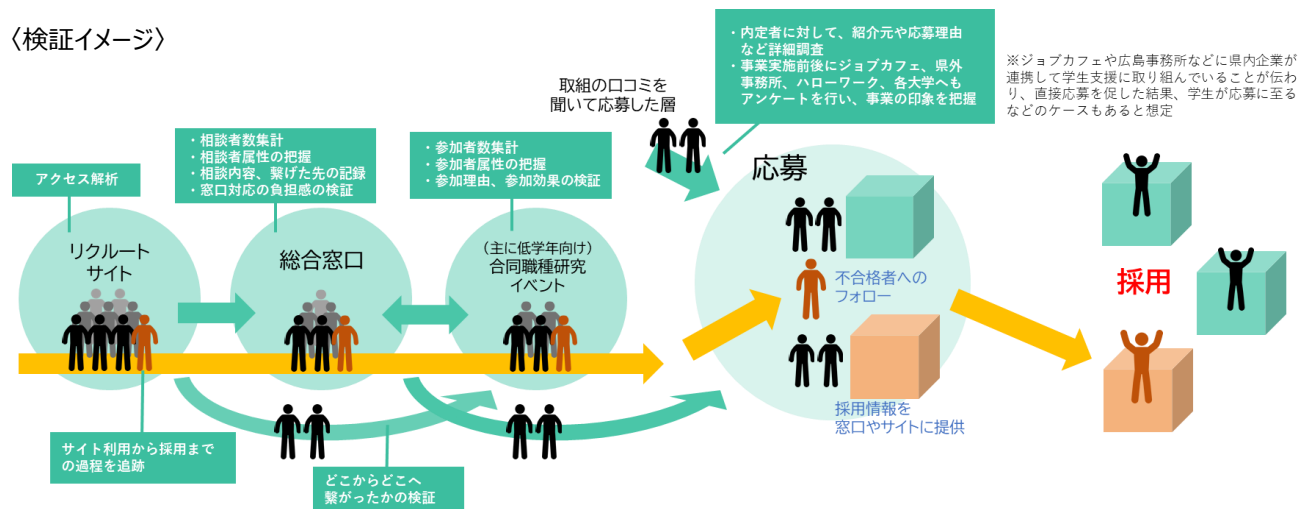
〈実施方法〉 県内企業団体に委託することとし、実施期間中はアドバイザーが伴走する。

〈検証内容〉

- ・まずは、リクルートサイトの作成、相談窓口の設置、合同職種研究イベントの実施。
- ・サイト～窓口～合同職種研究イベント～応募まで、すべてのポイントで利用者数や参加者数の集計をとる。
- ・どこへ繋がったか、どこへ繋がったかなど、最終的にどういった流れで採用に至ったか、学生ごとのプロセスも追跡する。

（※検証結果により臨機応変に実施内容を見直し、新たな事業を検討する可能性あり）

〈検証イメージ〉



しまねDX推進事業の概要

1. デジタル導入支援

12,948千円

① デジタル導入支援者による伴走支援（主にステージ1・2）

県内企業がデジタル導入する際に、ITコーディネーター等による派遣を実施

② ITOCによる伴走支援（主にステージ2・3）

IT経営相談会、Webマーケティング相談会、デジタル導入の専門家派遣を実施

2. デジタル活用・新ビジネス創出支援

43,229千円

① デジタル化への理解促進や機運醸成のためのイベントの実施

デジタル技術の活用や社内人材の育成を目的としたセミナーや、テクノアーク2Fのオープンスペース（しまねデジタルBASE）を活用した、体験や実証イベント、企画展示を実施

② デジタル活用や新ビジネス創出のための人材育成【新規】

ビジネスプロセスの改善や新ビジネス創出のスキルを習得する講座の開催をとおり、デジタル技術を活用できるリーダーシップを持った人材を育成

③ しまねDX拠点の運営【拡充】

県内産業のDXを進めるために、県内の産学官金を構成員として設置したコンソーシアムを運営し、デジタル導入のモデル事例の創出に向けた伴走支援を実施

しまねDX推進事業の概要

3. デジタル導入加速化補助金（主にステージ1・2） 64,500千円

業務の効率化やセキュリティ対策のためにデジタルツールを導入する取組を支援

- ・ 補助率 ソフト事業（1／2）、ハード事業（1／3）
- ・ 上限額 150万円

4. デジタル導入モデル支援補助金（主にステージ2・3） 34,800千円

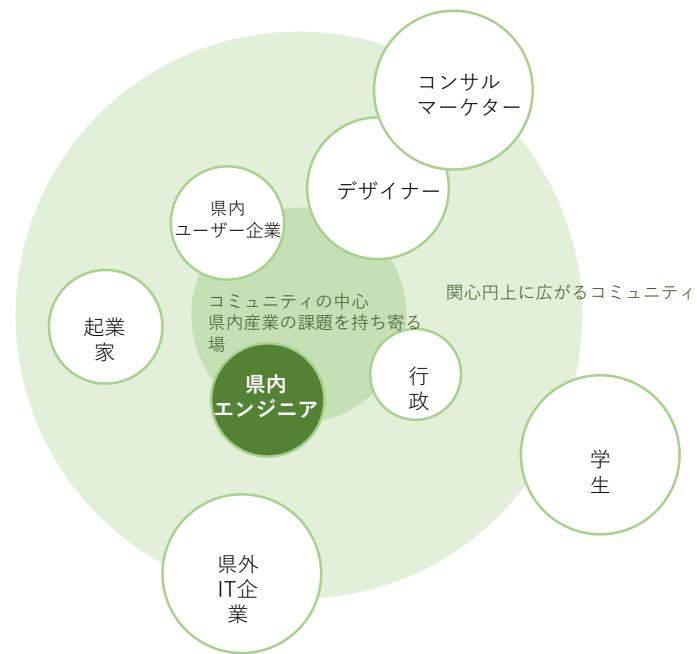
デジタル技術を活用した生産性の向上や新ビジネス創出を図る取組を支援

- ・ 補助率 ソフト事業（1／2）、ハード事業（1／3）
- ・ 上限額 400万円

デジタルリーダーシップ人材育成事業

地域産業のDXを支えるコミュニティの形成支援

目的	<ul style="list-style-type: none">・ 県内IT企業や、ユーザ企業など多様なステークホルダーの交流によるDX推進のための空気感作り。・ DXの素地となる顧客体験に主眼を置いたデザインプロセスの学習
R5 実施状況	<ul style="list-style-type: none">・ DXに関する経営課題への意識や、現場の状況などを把握することを目的にユーザ企業を中心に調査を実施。・ 今後の発展を見据え、県の補助金利用企業や県内IT企業などが参加したデザインプロセスワークショップを開催。 (参加者17社 26名)
R6 実施計画	<ul style="list-style-type: none">・ デザインの視点から企業のDXや事業創出を牽引するリーダー人材の育成を実施予定・ チーム出雲、県デジタル関連補助金の利用者（ユーザ企業）などを中心に将来的なコミュニティの形成に向けて活動

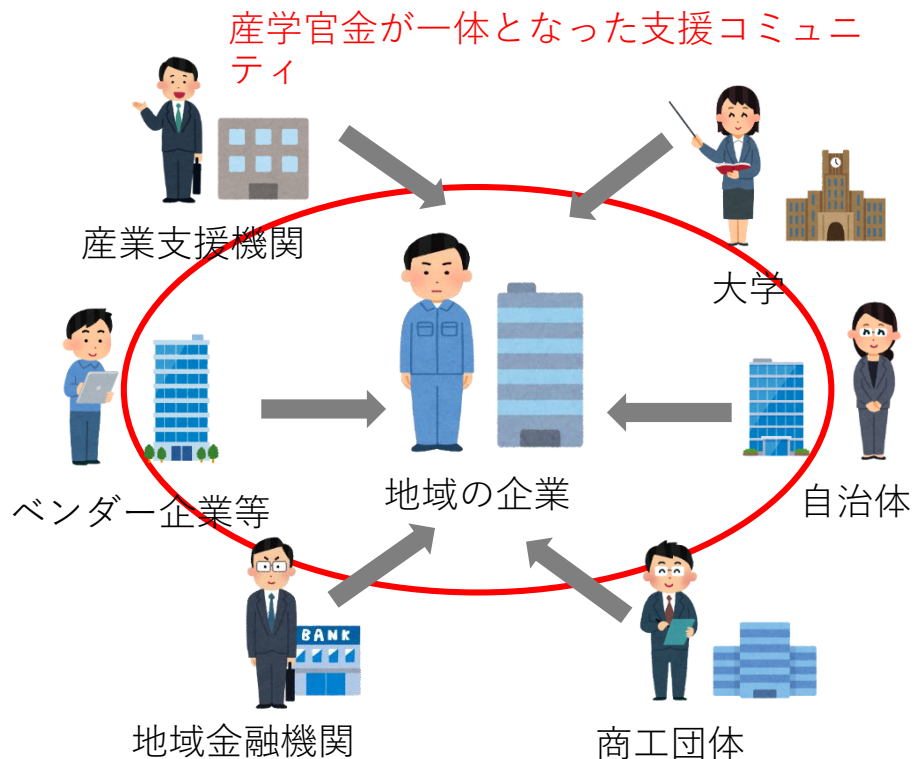


しまね地域DX拠点運営事業

○事業の趣旨

地域企業の経営・デジタル課題に関して、地域ぐるみで地域企業のDXを実現をするため、産学官金の支援機関・団体が一体となった支援コミュニティが実施する各種活動（「しまねDX拠点」という。）を運営するための経費を支援

○事業のイメージ



○事業の内容

(1) 地域企業のDX事業計画・システム導入計画策定の伴走型支援

次の支援を実施する過程で得られた計画策定プロセス、支援実施機関の関わり方、ユーザー企業のDX共創スキルを明示化し、県内企業への横展開を図る。

①モデル事例創出型支援

県内企業の先駆的なDXのモデル事例の創出のために、経営戦略、経営課題に立脚した計画の策定を伴走型で支援

②デジタル化チャレンジ誘発型支援

デジタル化の必要性は認識しているが実際の検討ができていないユーザー企業に対して、各種ツールの試用を通じたDX事業計画・システム導入計画の策定を伴走型で支援

(2) 地域企業とITベンダー等とのマッチング支援

支援先企業の経営戦略、経営課題に基づき、地域企業とソリューションを提供する事業者（ITベンダー等）とのマッチングを支援

(3) その他地域企業のDX推進に向けた支援活動

- ・創出されたモデル事例等による地域企業へのDX推進
- ・DXに関する理解の促進のためのセミナーの情報共有と参加者募集の相互協力等